



2015.March



田中  
学  
長  
が  
お  
話  
す  
今号の内容

**読書のすすめ**  
ホームカミングデー  
を開催しました!

**学園を築立つ前に**  
嗚教のあたたかさ...  
いのちのアンサンブル

**国際交流**  
*I HATE JAPAN*  
私は日本が大嫌いだ

**留学体験記**  
ロイファナ  
大学

こんにちは!  
附属です!!  
...伝統の揮毫式

**サークル紹介**  
文芸同好会「露草」  
タッチフットボール!!  
ほか

**学園だより**

G A K U E N D A Y O R I

# 学園だより No.71

## CONTENTS

2015.3

読書のすすめ	学 長 田中 雄三	1
学園を巣立つ前に		2
鳴教のあたたかさ	幼児教育専修	清瀬 直人
4年間の大学生活を振り返って	算数科教育コース	辻永 大地
大学生活4年間	美術科教育コース	櫻井 麻央
大学の景色と写真	特別支援教育専攻	深井 晶子
貴重な出会い、貴重な経験	社会系コース	遠藤惣一郎
3年間を振り返って	生活・健康系コース（家庭）	柏木 麻里
生命のアンサンブル	芸術系コース（音楽）	浅田 翔太
期待以上の2年間に感謝	教職実践力高度化コース	坪井 保人
退職にあたって		10
退職に当たって	生活・健康系コース	畑中 伸夫
第2の人生	監査室長・主幹	宮川 俊二
国際交流		12
ラオスを訪問してー授業観察と学会発表ー	国際教育コース	北野 香
ードイツ リューネブルグ ロイファナ大学ー	図画工作科教育コース	磯田 有里
私が感じた日本の魅力ー外国人留学生学外研修に参加してー	国際教育コース	游 申芳
I HATE JAPAN 私は日本が大嫌いだ	教員研修留学生	Sonny Elfiyanto
こんにちは附属です		16
思いのつまったもちつき	附属幼稚園	佐藤 彩香
町たんけん	附属小学校	東野 伸哉
伝統の揮毫式	附属中学校	上原 祥子
こんにちは附属です	附属特別支援学校	吉本 貴明
課外活動～サークル紹介～		18
タッチフットボール！！	タッチフットボール部	杉村 暖
男子ハンドボール部 活動紹介	男子ハンドボール部	西野 克弥
文芸同好会「露草」	図画工作科教育コース	井上 昂紀
フィルハーモニー管弦楽団	英語科教育コース	鈴木美紗貴
学生会・院生会だより		20
1年間を振り返って	学生会長	赤木 静香
平成26年度をふりかえり	院生会会長	山田 高之
大学祭を終えて		21
	鳴潮祭実行委員会	中川 裕太
	鳴潮祭実行委員会	木下 萌
先輩からのメッセージ		22
人との出会いに感謝！		市村 夏実
教師二年生（担任一年生）		小井 恵理
第1回 ホームカミングデーを開催しました！		24
		総務課
障がい者アスリートの社会的評価について		25
	附属図書館事務室	福田 知二
健康手帳 「癌治療100年の進展ーアミノプテリンから分子標的治療薬へー」		26
図書館だより		27
防災訓練関係		28
		施設課
情報基盤センターよりお知らせ		29
学生表彰		30
行事予定・編集後記		31

# 読書のすすめ

◆ 学長 田中雄三



「学園便り」の原稿を依頼された時、一番考えるのは学生諸君へのメッセージ性である。単なるエッセイにならないように、また重複しないように心がけているつもりだが、なかなか難しい。これまで「学園便り」に掲載された拙論のテーマを並べてみると次のようになる。

「あいさつは一仕事」(No.66), 「性格について一人さまざま」(No.67), 「2020年東京オリンピック開催と民族同一性」(No.68), 「空飛ぶ夢と言葉の重力」(No.69), 「自己不全性格と老賢者」(No.70)。性格に関する文章が多いようであるが、これは私の学位論文が、「鳥取大学式性格検査質問紙の作成とその使用成績」であったことと関係があるのかも知れない。

さて、今回のテーマは「読書のすすめ」である。子どもの頃から読んだ本は数知れず、ジャンルもまちまち、精読ではなく乱読である。自由連想的に思い出してみると次のようなタイトルが思い浮かぶ。「少年ケニヤ」, 「こがね丸」, 「泣いた赤鬼」, 「にあんちゃん」(安本末子の日記), 「路傍の石」, 「友情」, 「痴人の愛」, 「走れメロス」, 「チボー一家の人々」, 「赤と黒」, 「月と6ペンス」などなど。一見ばらばらに見えるが、物語を通底するのは「友情」である。一般の青少年がそうであるように、私もまた青年期には友情に憧憬の念を抱いていたのだ。戦後、第三の新人と言われた遠藤、安岡、吉行の3人の作家の中では吉行淳之介が最も好みで、吉行の作品は、ほぼ全てを読んだ。中でも「驟雨」は秀逸。遠藤は「沈黙」、安岡は「海辺の光景」が絶品。万年ノーベル文学賞候補の村上春樹作品は、ほぼ全て読んでいたが「羊をめぐる冒険」がターニングポイントで「世界の終りとハードボイ

ルド・ワンダーランド」が最高峰ではないかと、私は思う。大江健三郎の作品は処女作「奇妙な仕事」から始まって「万延元年のフットボール」までは磁力に引かれるようにして丹念に読んだが、その後の作品には何故か波長が合わなくなった。

私の選書、読書の仕方であるが、新聞や雑誌の書評欄で気になる本をチェック。ここ数年は東京へ出張の折、丸善で購入。求める本が必ずあるのが東京である。東京の一番すごいところだと思う。現在、購入しようと思っている著作は「献灯使」(多和田葉子), 「21世紀の資本」(トマ・ピケティ)の2作。学園便りが出版される頃には入手し、読了していると思う。読書の仕方は、一气読みであったが、目が霞む年になった。枕元には頁を開かれるのを待っている本が積まれている。私の知識の源は読書にあると思っているが、判断力や思考力の水源もまた読書に負うことが多い。

私は老いたが、諸君は最も読書力や記憶力に優れた時期である。徹夜しても集中して本が読めるのは青年期をおいて他にない。脳がパンクするのではないかと心配になるほど様々な知識を限りなく吸収できる。そして、理解し記憶することができる。読書は教養の基盤をつくるものであると私は思う。

諸君、読書したまえ！



# 学園を築立つ前に

## 鳴教のあたたかさ

◆ 学部 幼児教育専修 清瀬直人

幼児教育専修として入学したこの5人で、4年間を過ごすことができよかった。心からそう思える人たちと出会えたことはとても恵まれたことだったと思います。

4年間、思えば驚くほどずっと一緒にいました。同じ授業を受け、学園祭のために準備を重ね、旅行に行き、何かと理由をつけては飲みに出かけました。その中でも印象に残っているのは3年生のときの主免教育実習です。附属幼稚園で同じ実習に臨んだ院生の方も含め、子どもたちといるときには、声をかけ合って、時には声をかけなくてもお互いの意図を感じ、それぞれの役割を考えながら実習に臨みました。それも日頃の信頼関係があったからこそできたのだと思います。子どもが帰ったあとには、みんなで協力し合い翌日以降の準備に取り組みました。準備や記録に毎日夜遅くまでかかり体力的には苦しかったですが、このメンバーで臨んだことで、精神的にはとても楽しく過ごすことができました。そしてこの実習でそれぞれが成長する中で、より信頼感も深まったと思います。

大学生活で関わるのは同じ学科の人たちだけではありません。私にとって、特にテニス部での時間も濃いものでした。人数が少なく1年生のときから主将になりましたが、いつも先輩が陰で支えてくれました。練習が終わった後は、毎日1時間以上も反省会をした日々が懐かしいです。後輩もたくさん入り、普段はテニスの仲間でありライバルですが、テニスコートを離ればかけがえのない友人としてかかわっていくことになりました。

同じ学科や部活でなくてもかかわりがあるのが、鳴教の良いところだと思います。少し授業で話したことのある人が挨拶をしてくれたり、困ったときには助けてくれたり、温かい人たちの集まりです。その中で大学生活を過ごし、入学当初に比べれば人として成長できたと思います。これから社会に出ることになりますが、大学生活で身をもって感じた人の温かさを忘れずに、頑張っていきます。

大学生活を支えてくれたすべての人に感謝いたします。ありがとうございました。

(幼児教育専修) 馬居朋実, 川端大樹, 清瀬直人, 中川知美, 中瀬晴香



# 学園を巣立つ前に

## 大学生活4年間

◆ 学部 美術科教育コース 櫻井麻央

私はこの大学生活4年間でとても多くのことを体験し、学びました。講義での知識面や技術はもちろん、アルバイトでの社会経験、初めての一人暮らし、思い返すとたくさんのことがありました。失敗したことや成功したこと、すべて自分の身になっています。

入学したての頃は、地元を離れ、まったく知らない土地でうまくやっていけるのかと、とても不安に思ったのを覚えています。けれども先輩や同期の仲間に支えられ、わからないことなど教えてもらい乗り越えることができました。人の温かみを感じる最初の出来事でした。

アルバイトでは、長く続けているものや短期のもの、様々なものを行いました。やはり、それぞれ環境は違うので、それに順応する力や礼儀、お金を稼ぐということや責任感など、社会人に近い経験をすることで様々なことを学びました。コミュニケーション能力もつきますし、大学とは違った人たちと接することで新しい世界が広がる気がしてとても楽しく、自分にとって必要な経験だったと改めて感じます。

けれどもやはり、一番大きな思い出は大学生活です。3年次では約1ヶ月間、附属中学校に主免教育実習に行きました。同じコースの仲間と初めてのことで、わからないことだらけのなか協力し合い、頑張ることができました。4年での副免教育実習では、実習2回目ということで少し余裕が出てきたので、よりよくするために互いに切磋琢磨しながら頑張りました。最後には涙してしまう場面もあり、教員という職の醍醐味を感じることができました。また、学園祭や展覧会なども協力して楽しむことができました。

私は卒業後、教員の道とは違い、洋服の販売職に就きます。しかし、この4年間で学んだことはどれもすべて私の身になっており、必要なことだったと強く感じています。やはり、教員にならないのにこのような講義や実習ばかりで意味があるのだろうか、という思いがなかったかと言うと嘘になります。しかし、そう思いながらも一生懸命頑張り、考えることができたことも大きな学びだと思います。そして、意味があるのかと思っていた実習でも、礼儀や言葉遣い、臨機応変さなど多くのことを学ぶことができ、身につけているという事実があります。

思い返すと、何事にも背景には、すべて親や友達や先生方などの支えがありました。一人じゃ何もできないことばかりで、教育を学ぶこの大学だからこそ感じれたのかな、とも思います。多くのみんなとは異なる道に進む私ですが、この4年間で学んだことを生かして、卒業後も頑張りたいと思います。そして、私に関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました！



# 学園を巣立つ前に

## 4年間の大学生活を振り返って

◆ 学部 算数科教育コース 辻 永 大 地

「大学生は人生の夏休み」この言葉は私が大学に入学する前に高校の先輩に言われた言葉です。最初は周りに何も無い、人も少ない、電車すら通っていないこの環境にそんなことがあるのか想像もつきませんでした。しかし、いま大学生活を振り返ってみるとようやくこの言葉の意味をひしひしと実感することができます。この大学ならではのアットホームな環境の中で、たくさんの恵まれた人に出会い、日々笑いながら楽しく、ときには共に苦しいことも乗り越えながら、助け合いともに切磋琢磨し日々成長することができました。やはり、この大学の中での出会いが自分自身を大きく成長させてくれたのかなと思います。

春は出会いの季節であると同時に別れの季節でもあります。出会いは偶然、別れは必然であるように、卒業後は教師として働くものもいれば、企業に就職するもの、大学院に進学するもの、みな進路は別々です。この4年間の大学生活での仲間との出会いもたまたま縁があっただけなのかもしれません。しかし、これからの人生の中で大きな財産、支えになることは間違いありません。私はこの出会いに心から感謝したいです。

最後になりましたが、この4年間温かく支えてくださった先生方、共に助けあった算数数学科コースのみなさん本当にお世話になりました。4年間ありがとうございました。



(小学校) 石井遼太郎 久山和也 近藤瑞希 辻永大地 渡邊真帆

(中学校) 川村俊貴 小寺潤 是枝佑徳 頃安優志 西尾侑大 古家研人



# 学園を築立つ前に

## 大学の景色と写真

◆ 大学院 特別支援教育専攻 深井 晶子

入学式から、あっという間に2年が過ぎようとしています。千葉県で教員をしていた私にとって、鳴門に来るということは数年前までは想像もしていませんでした。しかし今、鳴門に来て本当によかったと思っています。ここに来ていなかったら出会えなかったたくさんの大切な人たち、教員をしていく上での多くの学び、人生を楽しむためのヒントを得ることができました。そして、それまでは知り得なかった自分を見つめ、変わっていく自分を感じることができました。それは、鳴門という土地やそこに住むおおらかな人々、そして大学の先生方や級友たちがいたからこそだと思っています。

この2年間で思い起こされるのは大学の風景です。

私は、学生宿舎に住み大学に通っていました。毎日のように通る大学への道は季節の移り変わりや私自身の変化とともに見える景色が変わり、私はその変わりゆく一瞬一瞬の景色をカメラにおさめることが日課となっていました。広い敷地の中で、草花を管理してくださる人たちに会って挨拶することも密かな楽しみでした。1年目には気づく余裕のなかった大学の桜のきれいさ。アメリカデイゴの真っ赤な絨毯。南の島のような門への道。院生室から見える夕日。駐車場を賑やかにしていたモミジバフウ。冬の日の大きな虹。ひとつひとつの写真がその頃の自分を思い起こしてくれます。同じ景色を二度と見ることはできません。そして、この景色を見られた2年間は人生のほんの一部となっていきます。でも、この鳴門での2年間は小さいながらもしっかりと、この写真たちとともに私の中にあり続けてくれるのだと感じています。



# 学園を巣立つ前に

## 貴重な出会い，貴重な経験

◆ 大学院 社会系コース 遠藤 惣一郎

私は現在、社会系コースのL3として学校生活を送っています。卒業を間近に控え、これまでを振り返った時、この3年間はたくさんの経験をさせてもらいました。入学時といえば、社会科の事はほとんど知識もなく、学校の先生を目指す者としての土台すらない状況でした。そんな私に鳴門教育大学の3年間は非常に多くのことを勉強させてくれました。社会学ゼミでは談笑を交えながら楽しく、時には厳しく指導していただき社会の仕組みについて学ぶことができ、地理学の先生には自分の目で見て学習することを教わり、実際に様々な地を自分の足で訪れ多くの事象に触れました。また、院生室室長や大学院生の集団討論勉強会等で40から50名程度の人をまとめることもありました。謙遜でもなんでもなく私はそれらをするような行動力も能力も持ち合わせてはいませんが、周りの人のおかげでそれらをすることになり、また、完遂することができました。これらの学びから、最終的には教員採用試験に合格することができ、結果としてここにきた最終目標を達成することができたと思います。

ここにきて、私は多くの経験と知識を得る充実した期間を過ごしました。それらは私が出会ってきた人たちがそこに導いてくれたある種の運の要素もありできたことであるでしょう。しかしその運も出会いも引き寄せるためには自分自身が行動しなければ始まりません。新しいものに触れるのは怖いことだと思います。しかし勢いよく飛び込んでしまえば案外そうでもないもの。鳴門教育大学で、自分の限界を試してみたい、そのための1歩を恐れずに踏み出してみたい。それが実際私の世界を広げたい、あなたの世界を広げたいと思います。周りを見渡してください、お世辞にも大都会のど真ん中、様々な資源にあふれた場所にある大学ではないでしょう。それでも、何も無いようで何かがある、それが鳴門教育大学であると私は思います。在学生の皆さんはこれからの時間を何かを生み出すために様々なことに挑戦しながら過ごしてってください。

偉そうなことを書いてしまいましたが、冗談半分・本気半分で参考にしてもらえると嬉しいです。末筆ではありますが、鳴門教育大学の皆様、おかげさまでこれまで3年間充実した時間を過ごすことができました。これからは立派な先生となりこれまで私に関わってくださった皆さんに恩返しをしていきます。本当にありがとうございました。





# 学園を築立つ前に

## 3年間を振り返って

◆ 大学院 生活・健康系コース（家庭） 柏木 麻里

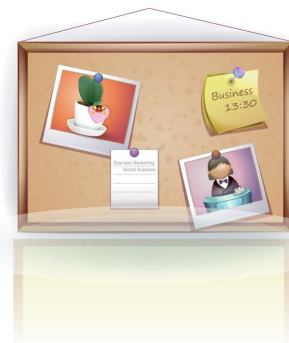
3年前の2012年4月、色々な目標や思いと多少の不安を抱きながら大学院に入学しました。私が教職の道に進むきっかけとなったのは、大学で管理栄養士と栄養教諭の資格取得を目指したカリキュラムの受講でした。その中で、園児や児童に食育や栄養指導を行う経験をして、「自分がこれまでに得た知識や技能を子ども達に伝えていきたい」と強く思うようになりました。そして、私の高校時代の恩師に“教員になりたい”という思いを打ち明けると「あなたと一緒に働きたい」と言って頂き、その一言で私は、家庭科の教員になることを決めました。

大学院では、家庭コースの先輩方や同期生また3年間で教職を学ぶ長期履修生のたくさんの仲間ができました。特に、長期履修生のホームルームの仲間との出会いは、私の大きな支えになりました。ホームルームの仲間は、取得する免許や校種は異なりましたが、夢をもち自分の専攻分野に向き合う真剣な姿をみて、私ももっとやらなくては…と奮起させられる存在であり、出会えたことに感謝しています。

勉学に関しては、家庭コースの授業は少人数制で演習のような活動が多くありました。また、学部生、院生や留学生とも関わる機会があり、自分と異なる意見を知ることができ、考え方の幅が広がったように思います。

また、L3では、県内の高校で家庭科の非常勤講師として経験を積ませて頂くことができました。教育実習とは異なり、年間を通して授業を担当することで、責任を実感し、これから教員となる上での基盤となる貴重な体験となりました。

最後に、大学院生活で出会った方々には、大変お世話になりました。教員採用試験にも合格することができ、春からは中学校の家庭科教員として教壇に立つことになります。この3年間の様々な経験を糧に、新しい環境でも成長していきたいと思います。



# 学園を築立つ前に

## いのち 生命のアンサンブル

◆ 大学院 芸術系コース（音楽） 浅田 翔太



〈入学式の日 学内にて 雪柳〉

潮風薫る <sup>まなびや</sup> 学舎で  
友の生命と <sup>いのち</sup> 我が生命  
打ち鳴る音・学 <sup>おん</sup> <sup>がく</sup> 奏でたり  
終わりなき <sup>いのち</sup> その創造は  
志国旅立ち <sup>しこく</sup> 世界へ乱舞せむ

### 感謝

私にとって、この3年間における一番の宝物は、音楽コースのみんなをはじめ、諸先生方、学生宿舎、阿波踊り、教育哲学研究会、教育実習の仲間などたくさんの人に出会えたこと、そして、何よりも学問の師匠である長島真人先生に出会えたことです。人間は、たくさんの人との出会いの中で、自身の内にある<sup>いのち</sup>生命をぶつけ合い、触発させ合いながら共鳴し、生命の音楽を奏で生きているのだと思います。そうした破壊と創造の連続の中で、人間は変化し、大きく成長していけるのではないのでしょうか。私は、この鳴門教育大学で、音楽においても、学問においても、まだまだ未熟ながらも、大きな力をつけることができたと思っています。それはひとえに、鳴門教育大学でたくさんのよき人々に出会い、支えられて来たからに他なりません。本当に感謝の思いでいっぱいです。



〈音楽コース同世代のみんな〉

### 誓い

一年生の時、学長、理事長の方々と懇談する機会がありました。その時、私は、鳴教生としての誇りを持つてる大学作りについて提案し、先生方と懇談する中で、これから鳴教のカラーというものを学生の側と教員の側の両方から作っていかなければならないという結論になりました。「大学の真価は、卒業生で決まる」と言います。私は、鳴門教育大学で培った熱と力を基盤に、教育者になる者として、“未来からの使者”である子どもたちと真剣に向き合い、子どもたちが将来活躍する各分野で、自他共に幸福へと導くリーダーへと成長できるよう死力を尽くして取り組んでいきたいと思っています。そして、その幸せの連鎖を、世界へ、また、世代を超えて未来へと終わりなく繋げていきたいです。私は、その志を胸に、ここ、志国<sup>しこく</sup>を旅立ち、阿波踊りの歓喜の舞を舞うが如く、世界の舞台へと乱舞していきます！

# 学園を築立つ前に

## 期待以上の2年間に感謝

◆ 大学院 教職実践力高度化コース 坪井保人

鳴門教育大学教職大学院の2年間は、期待以上のものでした。

第一に、よい出会いに恵まれました。先生方は本当に魅力的な方ばかりで、講義や演習も非常に充実した楽しいものでした。同期の院生からも大いに刺激を受けました。小中高の現職の先生方が現場を離れ、ゆったりとした時間が流れる環境の中で机を並べて共に学ぶ機会など、なかなか得られるものではありません。偶然ここに集い、同期となったことに不思議な縁を感じます。そんな仲間との議論は非常に有意義で、特に、高校と義務教育の違いには驚かされるとともに、自身の教育を振り返る有益な示唆を与えてくれました。演習や講義内でのグループ活動が多く、個々の考えをぶつけ合う場がうまく設定されていたことも刺激になりました。特に、「チーム総合演習Ⅰ」の「学校づくり」では、議論が白熱し、一向に前に進めず、難儀したことは今となってはよい思い出です。グループのメンバー構成も絶妙でした。院生室や夜の会、先進校視察での道中などもよき思い出として残っています。

そして、何より、ゼミの指導教官とゼミ生との出会いは、自分自身の考え方に大きな影響を与えてくれました。本当に感謝しています。指導教官は、ゼミでのご指導はもとより、週録に対して丁寧な返信をしてくださいました。これらのやり取りを通して、物事の見方や考え方、捉え方が変化してきたことを実感しています。実践研究においても、大きな後ろ盾となってくださいました。指導教官との出会いなくして実践研究はありえません。自軸を持ち、自信を持って一步踏み出す勇気を与えてくださいました。同じゼミ生との交流は心の安定剤でした。学校組織を相手に立ち向かうことなど、入学前はイメージさえできなかったことですが、そこに立ち向かう同志として、本当に心強い仲間となりました。ありがとう。

第二に、自分を見つめ直す2年間となりました。入学前は、目の前の仕事をこなすことに精一杯でした。そんな生活から一転、ここ鳴門では、自分と向き合う時間が持てました。じっくりと考える時間が与えられたことだけでも、授業料を払う価値があったと思えるほどです。心の余裕が生まれました。指導教官は、「組織は生き物だ」とよく言われましたが、自分理解を通して、他者理解・組織理解が深まっていくことを感じることができ、実践研究を進める上での力にもなりました。

現在は、今後の教師生活に対する不安より期待感が上回っています。迷ったときにはここで学んだ仲間がいます。修了後もつながりを大切にし、ここでの学びの上に更なる学びを積み上げていきたいと思えます。2年間の時間を与えてくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。





# 退職にあたって

## 第2の人生

◆ 監査室長・主幹 宮川 俊二

昭和50年4月に徳島大学に採用され、平成6年4月に鳴門教育大学入学試験係長に転任して40年。いよいよこの3月末をもって定年退職を迎える。この期に及んでまだ実感が湧かず「早や自分が退職する番なのか…」と心の準備もできていない。

振り返れば、採用初日こそ定時に退庁したものの、翌日から一週間は連日深夜までの勤務で帰宅もできず、大学の宿直室（当時は宿直勤務があった。）で寝泊りした。その後も残業続きで大学の宿直室でよく寝泊りしたものだ。

鳴門教育大学に転任した翌年、入学試験係長として大学入試センター試験を無事終えた1月17日に「阪神・淡路大震災」が起きた。

大学入試センター試験の答案用紙の返送を終えていたことに安堵したものの、この震災で尊い命を落とした多くの学生達のことを思い、胸の詰まる思いをした。

この40年の中で、特に20～40代の頃は定時に帰宅できる日は殆どないほどで、「17時に勤務を終えて、あとは自分の自由な時間で…」とイメージしていた公務員像とは全く違っていった。上司や同僚と意見がくい違い、悔しい思いをしたこともあった。自分が大学職員に向いているか解らず、仕事を辞めようかと思ったことも何度かあった。理不尽だと感じたとき、悔しいとき、しんどいとき…その時々思い出されたのは、就職して間もないときに母から云われた「取り敢えず3年間辛抱してみな」という言葉だった。

この「取り敢えず3年間辛抱」の積み重ねが私

の40年となっている。

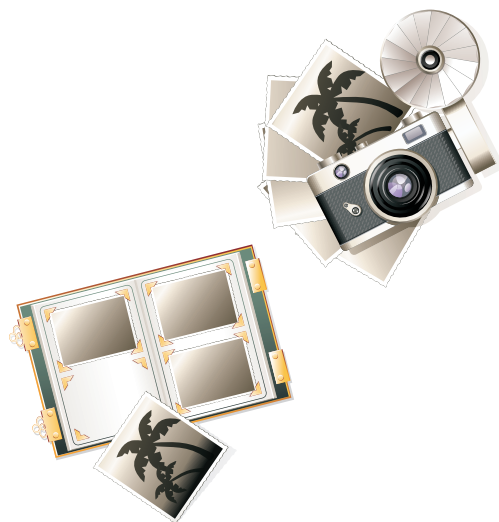
定年退職を一区切りとして4月に私は第2のスタートラインに立つ。まだまだ元気に過ごすつもりではいるが、素晴らしい第2の人生を送るためにどうすればいいのか、一人で何かできるのだろうか。仕事からは退くが、人生からリタイヤするわけではない。第2の人生を存分に楽しみ、素晴らしい時間を過ごしたいと思っているが、さて、その方策は…。ぼちぼち探していくこととしよう。

最後に、これから社会にでる学生諸君にエールを送りたい。

この社会は、理不尽で不平等だ。他人となかなか解り合えないこともあるだろう。

「取り敢えず3年間辛抱」して、心折れそうになったとき、君達を応援している者がいることを思い出してほしい。

縁あって、鳴門教育大学で学んだ学生諸君が、元気にそれぞれのステージで活躍してくれることを、大学職員として心から祈っている。





## ラオスを訪問して —授業観察と学会発表—

◆ 大学院 国際教育コース 2年 <sup>きた</sup>北 <sup>の</sup>野 <sup>かおり</sup>香

ラオスへは、初めての国際学会発表と授業観察をさせてもらうために訪問した。授業観察はラオスの首都であるヴィエンチャンと南部に位置するサワナケートの小中学校でさせていただいた。小学校に訪問した際、現地の先生方はあたたかく迎えてくれ、食事を摂る際にも「ここに座って！一緒にご飯をたべましょう！」と御座へ私を招き入れてくれた。小学校では、2コマ目と3コマ目の授業間に少し長めの休憩をとる。児童たちは校庭にある花壇で歯磨きや手洗いうがいをし、さらに余った水で花壇の花や校庭の木に水をやる。それを見守りながら先生たちは廊下に御座を敷いて軽食をとるのが習慣となっている。教育実習を終えたばかりの私にとってその光景は非常に新鮮であり、「指導しないでいいの？」と戸惑う光景でもあった。しかし、その食事は年齢や役職に関係なく色々な先生方が集まり、世間話や授業・教材のことまで様々なことを話す、大事なコミュニケーションの場になっているということがわかった。こういった場があるからこそ、「教材が足りない」「専門の知識がないからどう教えたらいいかわか

らない」といった問題についても気軽に先生同士で相談しあい、助け合いながら授業をつくっていくことができているのだと思った。

また今回の訪問では現地の先生だけでなく、青年海外協力隊として活躍している方々や、他大学の先生たちとも交流することができた。長期に渡って滞在するということは、現地の人にとってはただの「訪問者」ではない。同僚として信頼関係を構築しなければならない上、新しい提案も受け入れてもらえるような関係を築かなければならない。実際に隊員の方とも行動を共にさせていただいたことで、どうすれば信頼関係を得ることができるかということ学ばせてもらう経験ができた。

今回ラオスに訪問できたことで、その国の学校文化を新しく知ることができ、また現地でどうすれば受け入れてもらうことができるかということを考える機会となった。このような機会をくださった周りの方々に感謝してこれからもたくさんのことを学んでいきたい。





## —ドイツ リューネブルグ ロイファナ大学—

◆ 学部 図画工作科教育コース 4年 <sup>いそ</sup>磯 <sup>だ</sup>田 <sup>ゆ</sup>有 <sup>り</sup>里

2013年8月から2014年3月までの8カ月間、私はドイツのリューネブルグ・ロイファナ大学に留学した。リューネブルグは、ドイツのニーダーザクセン州の中心都市のハンブルクの南東に位置する人口7万人ほどの市で、鳴門市との姉妹都市だ。

きっかけは専修室に掲示された交換留学生募集用紙だった。これまで、私の人生の中で、3回留学したいと思うタイミングがあったのだが、どれも思っただけで終わっていた。つもり重なった思いが、知らぬ間に声になったようで、募集用紙を前にふと「行きたいな」と言っていた。それを聞いた友だちが賛成してくれたことで、一歩踏み出すことが出来、ドイツへの留学があれよあれよという間に実現していた。遠い存在で、夢だった留学が実現したのだ。

ロイファナ大学では8月にISUという留学生のための短期ドイツ語研修がある。ドイツ語に不安があった私は参加することにした。先生が話すのはもちろんドイツ語。全くわからないときに英語を使って助けてくれたが、教科書もドイツ語、文法用語もドイツ語で、初めのうちはついていくだけで本当に大変だった。予習と宿題に追われる日々だった。しかし、ドイツ語研修のほかにも日帰り旅行やピクニック、映画鑑賞、パブでの飲み会などを企画してくれていた。私は友達を作りたいかったので積極的に参加した。ISUには世界の様々な国から留学生が来ており、英語とドイツ語を混ぜたりして、とりあえず話している間にコミュニケーションがとれるように。不安だった友だち作りは思っていたより簡単にできた。ISUが終わると、10月から大学の1学期が始まった。大学の講義は美術の授業を5種類とドイツ語の授業を履修

した。美術の授業では実技が多そうなものを選んで履修したのだが、作家についてプレゼンテーションをする事が多くドイツ語で文章を作ることに苦労した。日本でも作家に着目してのプレゼンテーション経験がなかったのだが、作家について調べると作品を作るときの考え方や経緯などを知ることができるので、自分の制作の参考になった。以降、気になった作品があれば作家名をメモし、後でその人について調べることが習慣となった。

教育大学にいて周りとは代わり映えしない自分を変えたいと思い留学したが、実際はどこから来た何者で何に興味があるか等を人に伝えることが多かった。自分とは生まれた国も人種も価値観も違う人々と触れ合っていると、それまで気づけずにいた「自分らしさ、自分のやりたいこと」が明確になり、より積極的に自分について考える事ができたので、自信をもって就職活動に取り組めた。やらぬ後悔よりやる後悔。留学を迷っているのなら、とりあえず声に出して、友だちにでも相談してみるといいかもしれない。今まで見えなかった自分らしさに気付くことが出来るかもしれません。

最後に、この留学を無事に終えることができたのも、様々な人の支えがあったからこそ。本当にありがとうございました。





## 私を感じた日本の魅力 —外国人留学生学外研修に参加して—

◆ 大学院 国際教育コース 2年 ユウ シン ホウ 游 申 芳 (台湾)

12月18・19日に、国際ボランティア、国際交流系の皆さんと一緒に三重・名古屋へ行きました。今回の見学旅行では、最初に予想外の雪に見舞われ、驚きました。兵庫県内の高速道路を運転していた際には、雪がちらちら舞っていましたが、滋賀県にある大津サービスエリアに到着した時には既に大雪でした。にもかかわらず、雪は音も立てずにしんと降るだけで、外がいつもより静かになるのを感じました。

夕方に、三重県にある「なばなの里」という植物園に到着しました。バスを降り、空気が冷たく、道の側、生け垣にはたくさん雪が積もっていました。一緒に行った多くの留学生たちはあまり雪を見て、触る機会が少ないので、「なばなの里」の入口へ歩きながら、雪玉を作って投げ合いました。初めての雪合戦なので、とても面白かったです。

「なばなの里」の誇りというのは、一年を通して季節の花が咲いていることです。しかし、夕方に到着したので、園内にある庭園を見渡すことができなく残念でしたが、夜限定の「光のトンネル」、「お花畑のトンネル」、「ナイアガラの滝」のイルミネーションがすごかったです。そこで、以前「神戸ルミナリエ」に行ったことを思い出しました。同じイルミネーションなのに、「神戸ルミナリエ」は静かに心を癒されますが、一方、「なばなの里」のは、楽しく踊っているような感じでした。全く異なっ

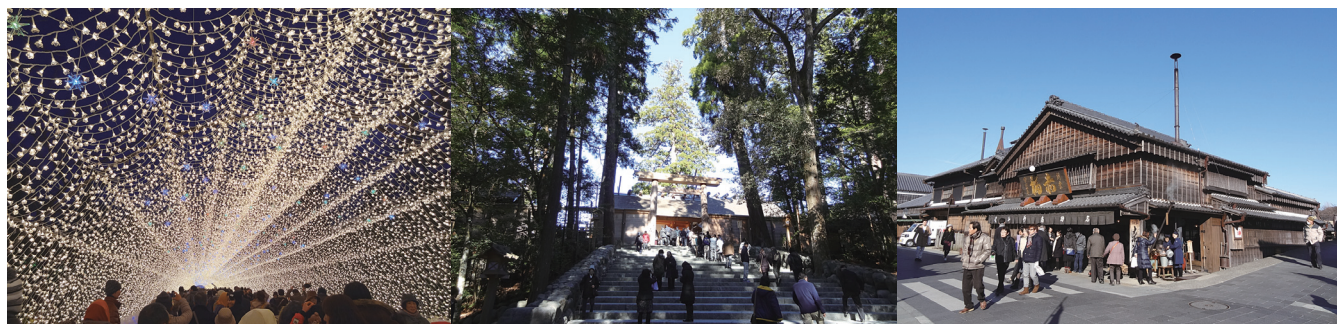
ているイルミネーションです。

夜は、名古屋にあるホテルに泊まりました。あの幻の手羽先を食べられませんでした。味噌とんかつ丼を食べました。さすがに「味噌」が有名なところで、あの味噌の味が今まで食べた中では、最も濃くおいしかったです。

翌日、伊勢神宮を参拝しました。伊勢神宮は内宮と外宮から成り立っています。外宮は豊受大神、内宮は天照大神をおまつりしています。豊受大神は農業の守り神、天照大神は太陽を司る神で、いずれも昔の社会にとって重要な存在なので、伊勢神宮は昔から今も、全国からの参拝客で、年中賑わっています。そこで、一つの勾玉形の御守を買い、無事に年を越せますように祈りました。

また、伊勢神宮に来れば、やはり「赤福餅」を食べなければなりません。「赤福餅」と言えば、知らない日本人は多分いないと思います。餅の上のせたこし餡が五十鈴川の流れ、白い餅は川底の小石を表し、とてもかわいい形です。「赤福餅」はかわいいだけでなく、口に入れた瞬間にこし餡の甘みが広がり、すごくおいしかったです。

二日間の旅行は短かったけれど、たくさん楽しい思い出を作ることができました。





## I HATE JAPAN 私は日本が大嫌いだ

ソニー エルフィヤント

◆ 教員研修留学生 Sonny Elfiyanto (インドネシア)

Coming to a country that doesn't use Roman letters is quite frustrating. It happened to me when I came to Japan on October 2013. I saw strange shapes of words everywhere. About two months, I was so shocked with Japanese language, since I could not read it, especially with Kanji. This made me hate this country.

I am here since I decided to continue my study to deepen my knowledge in English education. Everybody questioned my decision about going to Japan to study English, as we know that Japanese people are struggling in English, especially in communication. Therefore, many friends of mine had a big question marked with my decision, but I have my own reason about it. It's because Indonesia and Japan are in the same level in treating English as Foreign language. Consequently, I want to learn about how Japanese teachers teach their students about English.

I thought Japan was Tokyo, Mt. Fuji, kimono, sushi, samurai, sakura, Honda and Gundam before. During my stay here, I am learning lots of their unique and interesting culture. Japanese people still adhere to their culture. They are very proud of it. My hatred grows so big with this condition to this country.

This four-season country is not just about those things that I have already mentioned above; if you understand deeper and deeper, you will learn their politeness and their consistent way of life. Also, their concern with the environment makes this country famous with its cleanliness. That makes me hate more about this country.

However, this tiny country (compare to Indonesia) is slowly changing my way of thinking. I used to be on time person, but here you need to be in time person, because if you are late just for a minute, you will miss everything. Like, you will miss your train, bus, or ferry. Be punctual is one way of their life.

Then, I used to be a person who likes to mix all of the garbage. I don't care whether it is a burnable, unburnable or plastic. But here, I am learning how to separate the garbage and maintain my environment. Also, this country makes me jealous with its safety. I feel so secure living here. Thus, visiting this country is very worth-living experience.

More than one year I have been living in this country, and this country, which famous with its culture and hospitality, has already changed me to be a better person, at least for myself, and hopefully I can be an agent of change for my country to make Indonesia better than before. I envy so much with this country and its people and I hate about that. Thus, I want to go back and make my country like this country.

Gradually, I feel in love with this country. I have already made it as my second country. That's why; I hate Japan because I have to leave this lovely country soon. I feel that I need more time to adopt their culture and spirit to be a better person in life. Therefore, please allow me to change the title into THANK YOU JAPAN, I HATE TO LEAVE YOU.

ローマ字を使わない国に来るとは何といらだたしいことだろう。それが2013年10月に日本に来た時の私の感想だ。どこを見ても奇妙な形をした文字。最初の2ヶ月、心底日本語にショックを受けた。特に漢字があると読めなかった。だから私はこの国が嫌いになった。

私は英語教育の知識を深めるために来日することを決意した。なぜ英語の研究をしに日本に行くのか、皆が聞いた。日本人は英語、特に英語を使つてのコミュニケーションに苦労しているということを知っていたからだ。だから多くの友人は私の来日に疑問を持っていたが、私なりの理由があった。それは、インドネシアと日本は外国語としての英語の受け止め方が似ているからだった。従つて、日本人教師が英語をどのように生徒に教えているのか学びたかった。

私にとって、日本と言えば、東京、富士山、着物、寿司、侍、桜、ホンダ、ガンダムだった。こちらで生活してみて、日本独自の面白い文化にたくさん出会った。日本人はまだこの文化とともにあり、誇りを持っている。そこがまた私の嫌悪感を増幅させる。

四季のあるこの国は、これまでに述べてきたものだけではない。日本について理解を深めれば深めるほど、日本人の礼儀正しさと一貫した生活様式を知ることになる。また日本は環境に配慮し、清潔な国としても有名である。このことがまたさらに私の嫌悪感を増幅させる。

しかしながら、(インドネシアに比べ)この小さな国が徐々に私の考え方を変えていった。私自身、時間を守る人間だったが、ここでは、それでは遅い。なぜなら、1分でも遅れると列車、バス、渡し船、全てに乗り遅れてしまうからだ。時間厳守は日本人の生活そのものだ。かつて私は燃えるゴミ、燃えないゴミ、プラスチックなど、どれも一緒にしてゴミを出していた。しかしここに来てゴミの分別を覚え、身の回りの環境を守っている。それだけではない。この国の治安の良さもうらやましい限りである。ここでの生活はとても安全だ。だからこの国に住むという経験は価値がある。

この国に来て1年以上が過ぎたが、その素晴らしい文化とおもてなしに触れ、私自身が以前よりも良い人間になったようだ。自分自身はもちろん、願わくは母国インドネシアが以前よりも良い国になるよう一翼を担いたい。本当にこの国と国民がうらやましくもあり嫌いだ。私も自分の国をこの国のように変えたい。

だんだんとこの国に魅了されている。もはや日本は私の第二の故郷だ。だからこそ日本は嫌いだ。こんなに素晴らしい国をもうすぐ離れなければならないのだから。より良い人間になるために、日本の文化や精神を身につけるのには時間が足りない。だから最後にこのタイトルを変えさせてほしい。「ありがとう日本。あなたと別れたくない。」と。





## 幼稚園

## 思いのつまったもちつき

◆ 附属幼稚園 教諭 佐藤 彩香

昔からお祝いの時には餅が食べられており、新しい年の神様にお供えして神様と一緒に食べることで、新しい命や力を授かると言われている。新しい年が始まる正月に、食べると元気になる餅を用意するために、年越し前の12月に準備するのがもちつきの謂われである。

本園でも12月にもちつきを行った。前日に年長児が餅米を研ぐところから始まり、かまどに薪をくべて、竈で蒸して…と昔ながらの手法を大切にしている。みどり会の会長さんをはじめ、保護者の方も来てくださり、みんなで力を合わせてもちつきを行う。

子どもたちは「ぺったんこ ぺったんこ」と声を掛け、息を合わせながら、重い杵を力いっぱいふる。力持ちのお父さんに仕上げをしていただき、お母さんが熱いうちに丸めてくださると、美味し

い餅がつき上がった。一生懸命ついた餅は、あべかわ餅にさせていただいた。「すごくおいしい。」「最高。」という言葉とともに、友達と顔を見合わせながら自然と笑顔がこぼれる子どもたち。

もちつきは、人との繋がりやあたたかさを感じさせてくれる大切な行事であり、そんな日本の伝統ある暮らしを受け継いでいきたいと思っている。



## 小学校

## 町たんけん

◆ 附属小学校 教諭 東野 伸哉

附属小学校では、子どもたちが興味・関心を生かし、自主的、自発的な活動を行うことができるように様々な体験的な学習を取り入れています。

2年生では、学校の周りの町たんけんを行いました。まず始めに、クラスごとに町の様子を観察しました。そして、子どもたちは、学校の周りにはいろいろなお店があることに気づき、自分たちが調べてみたいお店を決めて、「お店図かん」を作る活動を計画しました。

調べたいお店ごとにグループを作り、お店の見学やお店の人にインタビューをして「お店図かん」に書きたい内容を調べました。そして、グループのメンバーと相談しながら、調べたことをまとめました。学習の最後には、それぞれのグループが調べたことを発表して、他のグループの子にもわかるように丁寧に説明を行うことができました。

子どもたちの中には、どうやって進めてよいかわからずに作業が止まってしまったり、逆に様々

な意見が出過ぎて意見がまとまらなかったりして苦労する姿が見られました。しかしながら、教師がじっくりと見守りながら最小限の支援を行うように努めることにより、自分たちの力ではどうしても解決できないようなこと以外は、教師に助けを求めずに自分たちの力で一生懸命考えて学習を進めることができました。

このようにして、小学校では課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養っています。



## 中 学 校

### 伝統の揮毫式

附属中学校には、昭和26年より一度も途絶えることなく受け継がれてきている、「揮毫式」という行事があります。これは、新しい年をスタートさせるにあたり、学校長の「新年のことば」の揮毫を囲み、全校生徒と教職員全員が、1枚の条幅（雄名録）に毛筆で自分の名前を書くという緊張と厳粛さの中で、母校に対する思いを育む伝統行事です。昭和26年から前年までの雄名録の掛け軸がずらりと並び体育館において揮毫する様子は壮観で、筆を持って向かう生徒たちの顔は、一段と引き締まって見えます。

揮毫をした生徒たちが、「世界に羽ばたく大きな人間に育って欲しい」という願いを込め、墨汁は、眉山の水（山）、吉野川の水（川）、そして太平洋の水（海）を混ぜ合わせたものを使用します。また、雄名録の揮毫と並行して、各学級において、

#### ◆ 附属中学校 教諭 上原祥子

奉書（雄志録）に思い思いの「新年のことば」を揮毫し、担任及び生徒一人一人の志を明らかにするとともに、クラスの連帯感を育みます。

本年も1月7日に揮毫式が行われ、全校生徒、教職員あわせて500名の名前が、雄名録へと記され、先輩から後輩へと伝統が脈々と受け継がれました。



## 特別支援学校

### こんにちは附属です

平成26年11月30日（日）に平成26年度学校祭が行われました。

学校祭は、児童生徒たちの日頃の学習の成果を発揮する場として、また、社会参加にむけて様々な方々に接したり、関わりを持ったりする場として、学校の教育活動の中で大変重要な行事となっています。また、家族や地域などの方々に対し、障害について理解を深めてもらうための場としても考えています。

今年度も附属小学校の児童や附属校園の先生方、教育実習生などが多数参加し、学校祭を盛り上げてくれました。各学部の表現の様子を見て、日頃の学習に対して温かい拍手をいただいたり、作品を買っていただいたりしました。児童生徒たちの笑顔が印象的でした。

一方では、就業体験でお世話になっている福祉

#### ◆ 附属特別支援学校 教諭 吉本貴明

サービス事業所や地域のスポーツ少年団の保護者の方々に来てもらい、食品などの販売をしてもらいました。

来年度もこの行事を通して、障害児理解啓発の場を大切にすると共に、児童生徒たちの笑顔が一杯の学校祭を考えていきたいと思います。



# 課外活動 サークル紹介

## タッチフットボール！！

◆ タッチフットボール部 部長 杉村 暖  
(学部 図画工作科教育コース 3年)

こんにちは！私たちタッチフットボール部は毎週土曜日13時から陸上競技場で練習をしています。

皆さんはタッチフットボールを知っていますか。タッチフットボールは今はまだマイナースポーツですが、とても面白いスポーツです。ルールは6人制のアメリカンフットボールの簡易バージョンのようなもので、タックルが無いので老若男女誰でも楽しめる事ができます。

私たち自身も男女様々な年代のメンバーで楽しく練習していて、今季は横浜スタジアムでの全国大会にも出場することができました。

全員初心者からなので、どなたでも是非一緒にタッチフットボールをしましょう！！



## 男子ハンドボール部 活動紹介

◆ 男子ハンドボール部 部長 西野 克弥  
(学部 国語科教育コース 3年)

私たち男子ハンドボール部は、一年生8人、二年生3人、三年生4人の計15人(プレイヤー13人、マネージャー2人)で日々の活動に取り組んでいます。練習は月曜日、水曜日、土曜日の週三回です。練習内容は基礎的なものから発展的なものまで自分達で考えたメニューをこなしています。毎週土曜日には高校生や他の大学、クラブチームとの練習試合も行っており実戦的で密度の高い活動になっています。今季は一年生がたくさん入部してくれたおかげで練習メニューの幅も広がり、活気も出ていました。一年生のうち半数はハンドボールにまったく関わったことのない未経験者でしたが、一年を通して彼らも大分この競技に慣れてき

たように感じます。一年生に限らずハンドボール部の半分は未経験者で構成されています。部長である自分も大学に入るまではまったくハンドについての知識はありませんでした。しかし三年間で知識や技術も向上し、ハンドの楽しさを知ることができました。現在私たちは春と秋に行われる中四国大会、そしてインカレの三つの公式戦を目標にして活動しています。他の大学とは部員数や設備などの差がありますが、それでも自分達の満足のいく試合ができるようチーム一丸となつてがんばります。

# 課外活動 サークル紹介

## 文芸同好会「露草」

◆ 学部 図画工作科教育コース 1年 井上 昂 紀

文芸同好会「露草」は2014年10月に設立されました。本同好会では、小説や詩などの執筆をはじめとした文芸活動を行っています。活動時間は現段階では週一度。木曜日の夕方6時から8時までです。この時間は、文芸について、創作についての討論をしたり、執筆した小説の推敲を行ったりしています。和気あいあいと最近読んだ小説の話や、はたまた部員の近況などの雑談もしながら活動しています。自由な雰囲気同好会で「小説を書いたことがない」などの初心者の方も「本を読むのは好き」という、いわゆる読むのが専門の方も大歓迎です！ また、平日頃の活動に加えて、1年のうちに2冊から3冊の部誌（執筆した

ものを本の形にしたもの）を制作するスケジュールです。一冊は学園祭で販売します。制作期間中は、活動時間外でも原稿の話をしたりと、日頃より、なお一層真剣に文芸活動に臨みます。学園祭では自分で作った小説などを、いろいろな人に読んでいただける貴重な機会を得られます。また、装丁のデザインや編集等は部員が行います。まだ創設したての団体で、手さぐりのことも多いですが、みんなで楽しく活動出来ていると思います。これからより熱心に活動できるよう努力していきたいと思っています。



## フィルハーモニー管弦楽団

◆ 学部 英語科教育コース 2年 鈴木 美紗貴

フィルハーモニー管弦楽団は、弦楽器のみで構成されたオーケストラです。

部員13名はほぼ初心者で、とても小規模ですが学部生から院生まで和気藹々と練習に励んでいます。活動日時は、毎週金曜日18時半～21時です。週に1回なので兼部もできます。バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスとどの楽器も予備があり、初心者大歓迎です。

イベントは主に、児童館での演奏、アンサンブルコンサート、卒業式での演奏の3つです。児童館には毎月ボランティアとして赴き、演奏、指導を行っています。演奏曲はジブリ、J-POP、クラシックなど幅広いジャンルに及びます。年に

数回、顧問の長島先生（鳴門教育大学芸術系コース（音楽）教授）による指導も行われ、専門的なことも学ぶことができます。

音楽を楽しみ、聞いている人も楽しませることのできる演奏を目指して部員一同頑張っています。音楽が大好きな人なら誰でも大歓迎です。ぜひ私達と一緒に音楽を楽しみませんか？



# 学生会・院生会だより

## 1年間を振り返って

学生会の会長を務めさせていただいてはや1年がたとうとしています。今年度も学生会執行部としてたくさんの活動をさせていただきました。私の力不足で至らぬところが多く、皆様にもご迷惑をおかけしたこともございました。ですが、執行部メンバーや皆様からのご協力があったおかげで楽しく活動が出来たと思います。一部分ですが、この場を借りて紹介させていただきます。

1つ目は、写真にもありますように、徳島ヴォルティスを応援する『スタジアム学園祭』に参加しました。今年はボランティアスタッフを募り、学生会執行部だけでなく鳴門教育大生全体で徳島ヴォルティスを応援することができました。鳴門教育大学のブースも例年よりも一層盛り上がっていたと思います。「仮装ビンゴ」ということで鳴門教生とサポーターの皆様が楽しく交流している姿を見て、大変微笑ましい気持ちになりました。

2つ目は冬のイベント、ココアデーとイルミネーションです。ココアデーは多くの方に参加していただき、大盛況であったと思います。また、今年

◆ 学生会長 赤木 静香  
(学部 国語科教育コース 3年)

は春夏秋冬をテーマにイルミネーションを行いました。授業時間だけでなく夜遅くまで点灯したり、クリスマスイブ・クリスマス当日も点灯していました。来年は更にバージョンアップして皆様に素敵な時間をお届け出来ればと思っております。

最後に、学生会執行部として大きな行事は残すところ卒業・修了記念パーティーだけとなりました。お世話になった先輩方に楽しい時間を過ごしていただけるよう、院生会執行部の皆様や卒業・修了記念パーティー委員の皆様方と力を合わせて頑張っていきたいと思っております。1年間ありがとうございました。



## 平成26年度をふりかえり

平成26年度の春に本学へ入学し、鳴門での四季を感じながら足早に季節は巡り、もうすぐ2度目の春を迎えようとしています。新たな場所へ旅立つ日、新たな学年に臨む日、そして新たな仲間を迎える日が近づいております。

院生会主催として後期におこなった行事は1つ。12月中旬にソフトバレーボール大会を開催いたしました。冬の寒さが増す中ではありましたが、多くの方々に参加していただきました。予選リーグと決勝トーナメントがおこなわれ、どの試合も熱戦がくり広げられる大会となりました。

本年度は修了式の日学生会との共催で卒業・修了記念パーティーを予定しております。修了生の方々には大学院生活最後のよき思い出となるように準備を進めております。

会長として過ごした1年は実りあるものとなり、

◆ 院生会会長 山田 高之  
(大学院 人間形成コース 1年)

特に人と人とのつながりを多く得られた日々となりました。院生会として主催行事を開催するにあたり企画・運営を担ってくれた代表役員、各部長ならびに役員方一人ひとりに感謝いたします。また、院生会主催行事に参加していただいた皆様ありがとうございます。

本年度で挙げた改善点などを次年度へ引き継ぎ、よき活動が続けられるように尽力いたします。次年度も院生会活動にご協力をお願いいたします。



# 大学祭 を終えて

皆さんにとって、今年の鳴潮祭はどんな学祭になりましたか。学祭の裏側というのは、想像以上に大変なものでした。スポンサー周りから始まり、パンフレット作りや模擬店の準備、マスコットキャラクターの応募、企画の思案など前途多難でした。しかし、実行委員13人が協力し合ったおかげで多少のトラブルはありましたが、無事本番を迎えることができました。そして迎えた本番では皆さんの協力もあり、笑いあり、涙ありの3日間を過ごすことができました。最終日には、学祭に参加した人全員で「1, 2, 3 だー！」のポー

## ◆ 鳴潮祭実行委員会 委員長 中川 裕太 (学部 技術科教育コース 2年)

ズで写真を撮りましたが、その写真のまげまげいっぱいの笑顔こそが学園祭が成功した証ではないかと思います。

最後になりましたが、第31回鳴潮祭を開催するにあたって協力していただいたスポンサーの方々や地域の皆さん、マスコットキャラクターを書いてくれた小学校のみんな、学祭を盛り上げてくれた鳴教生の皆さん、そしてなにより苦楽とともに過ごした13人の実行委員のみんな、本当にありがとうございました。今年の第32回鳴潮祭が昨年よりも盛り上がることを願っています。



元気があれば何でもできる。そう言い切れる鳴潮祭になりました。昨年度までの記録を参考に、よりよい学祭を行うため、時間単位で計画を立て、新しい企画にも挑戦しました。私たちがしたいことを実現するために、嫌な顔を一つもせず協力

## ◆ 鳴潮祭実行委員会 会計 木下 萌 (学部 理科教育コース 2年)

してくれた1, 2年生、昨年度の実行委員の先輩方、学校の職員の方々に大変感謝しています。しんどいときも前を向いて取り組むことのできる実行委員のメンバーを誇りに思い、来年度にしっかり引き継ぎたいと思います。ありがとうございました。

# 先輩からのメッセージ



## 人との出会いに感謝！

### ◆ 市村夏実

大学での四年間を振り返ると「人との出会い」という言葉が、一番先に頭に浮かんできます。私は四年間この鳴門教育大学の学校教育コースで学び、昨年卒業しました。今は徳島で小学校教員をしています。社会人になってからも、鳴教での「人との出会い」のおかげで、充実した毎日を送ることができています。

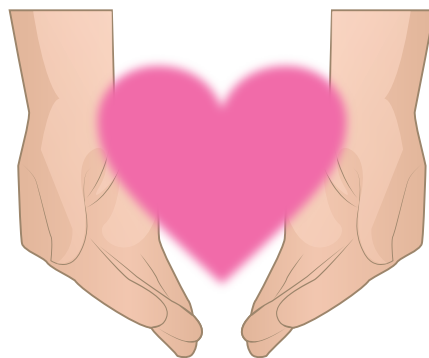
私は今、小学校四年生の担任をしています。大学を卒業し、社会人になったばかりの四月は分からないことや不安でいっぱいでした。また、大学とは違う生活リズムに慣れなかったり、仕事の責任の大きさに戸惑ったりすることも多くありました。しかし、自分で試行錯誤したり、同じ学校の先生方にアドバイスを頂いたりして、今は子どもへの接し方や仕事内容にも大分慣れてきました。とはいえ、私はまだまだ新任の教員なので、勉強の面では一年目にある初任者研修や、先輩の先生に教えていただいたセミナーに参加して学んだり、学校は朝一番に行き鍵や窓を開けたりと、自分にもできることを見つけて実践しています。

充実した教員生活一年目を送ることができているのも、周りの人々のおかげです。経験の少ない私に、丁寧に仕事内容や子どもへの関わり方を教えてくださる、同じ職場の先生方はもちろん、鳴教で出会った人たちも大きな心の支えとなっています。長期休みには必ず鳴教の友達と会い、お互いの仕事のことや会っていない間のことを話していることで心もリフレッシュすることができています。また、私は大学的时候、小学校の学習支援ボランティアに行っていたので、ボランティア先の

先生にも働き始めてから研修会等でお世話になっています。

このように、私は鳴教でたくさんの人と出会い、その繋がりが今も続いています。ボランティアだけでなく、サークルやアルバイト、もちろん遊びなどを通して、様々な人と出会い、様々な経験をすることができました。その繋がりのおかげで、他の人から話を聞く機会が多くあり、自分の知らないことを知ることができたり、視野を広げることができたりしました。皆さんも、大学生の今だからこそ、サークル・部活やアルバイト、ボランティア、趣味などを通して、人と出会うチャンスがたくさんあると思います。その中で、自分と同じ考え方をする人だけでなく、違う考えを持つ人と出会うことができるとと思います。その出会いは今だけでなく、その後もずっと皆さんの糧になると思うので、どんどん色々なことに興味を持って経験して行ってください！

〈平成25年度 学部 学校教育コース 卒業〉



# 先輩からのメッセージ



## 教師二年生（担任一年生）

### ◆ 小井 恵 理

学校教育研究科言語系コース(国語)、平成24年度修了生の小井恵理です。

現在、和歌山県立の高等学校に勤務し、高校一年生の担任をしています。担当教科は国語、クラブは水泳部とテニス部の顧問をしています。教師二年目です。

#### 【一年間の主な行事】

- 4月** 入学式。初担任ということで、生徒以上に緊張しました。
- 5月** 球技大会。生徒以上に張り切ってバレーボールをし、生徒に笑われました。
- 6月** 高校総体。近畿大会出場に向け、部員を叱咤激励しました。
- 7月** 部員を連れて、近畿大会出場。  
初めての三者面談。保護者と話をするときは、ものすごくドキドキしました。
- 8月** インターハイで東京へ。
- 9月** 文化祭&体育祭。  
文化祭では模擬店をし、商売の大変さを知りました。  
体育祭では、大縄跳びでクラス一丸となり、学年優勝をしました。  
遠足でパーベキュー。
- 10月** 学校では見られない、生徒の楽しそうな姿を見ることができました。
- 11月** 防災スクールで、地域の人や小学生と交流。  
丁寧に小学生に教える、生徒の意外な一面を発見することができました。
- 12月** 第2回三者面談。  
学校での生徒の様子を伝えるとともに、成績を上げてきた生徒、キープできた生徒はその調子で2年生につなげられるようにと伝え、成績が下降気味の生徒には激励しました。

#### 【これからの予定】

- 1月** 現地研修（修学旅行）。  
沖縄とグアムの2方向に分かれ、現地の歴史を学習しながら、楽しむことができます。
- 2月** 校内マラソン大会。  
ベストを目指して頑張ってくれるはずです。
- 3月** 卒業式。  
先輩との別れを経験します。また、2年生に向けての準備期間となります。



球技大会



文化祭



体育祭（大縄跳び）



遠足



防災スクール

授業で、文学に関する雑学を生徒に伝えると、生徒の中に文学に対する興味・関心が生まれ、学習意欲につながります。教職を目指している皆さんは、専門教科やその他の教科に対する雑学をたくさん調べてください。そして、困ったことやわからないことがあれば、周りの先輩に積極的に聞くよう心がけましょう。たくさんの人の話を聞くことで、自分の中にいろいろな視点生まれ、生徒に対する接し方の勉強になります。教科の壁をこえて交流をすると、様々な授業の仕方を学ぶことができます。

先生はとても忙しい職業です。しかし、生徒と共に成長することができる、とても楽しくやりがいのある職業です。教職を目指す皆さんは、夢の実現のために頑張ってください。一緒に、生徒のために全力で頑張っていきましょう。



誕生日お祝いしてもらいました♪



大縄跳びの練習、疲れました！（><）



体育祭



# ホームカミングデー

## 第1回 を開催しました!

◆ 総務課

平成26年11月15日（土）に、「第1回鳴門教育大学ホームカミングデー」を開催しました。

ホームカミングデーとは、本学卒業生・修了生の方が、大学の近況に触れ、懐かしい恩師や同窓生、在学生との交流・親睦を深めていただくことを目的としたイベントで、今回が初めての開催となりました。

今回のホームカミングデーは、「鳴潮祭」の期間中に開催し、「鳴門教育大学文化講演会」と「鳴門教育大学同窓会懇親会」を併せて開催しました。

午後1時から、コアステーション3階F会議室において全体会が行われ、田中学長の挨拶、西園理事、山下理事及び大石副学長による本学の近況報告、三牧同窓会会長による同窓会の活動報告がありました。

また、合唱団 t a d p o l e により、「鳴門教育大学学歌」と「花は咲く」の2曲が斉唱され、参加者は久しぶりに聞く学歌に懐かしさを感じるとともに、すばらしい歌声に魅了されていました。

自由見学の時間には、「鳴潮祭」のイベントや附属図書館の写真展「鳴門教育大学の歩み」の見学がありました。写真展では、本学が開学してからの33年間の歩みが展示されており、建物がま

だ部分的にしか完成していなかった時期の写真を見て、参加者は当時を懐かしんでいました。

午後3時から、講義棟1階B101講義室において「文化講演会」が行われ、本学大学院の修了生であり、現在、今治市立常盤小学校の校長である渡邊和志氏から「子供のランドセルに入れてあげるもの」と題し講演がありました。本学に在学していた頃の話や、校長としてのこれまでの活動等、ホームカミングデーにふさわしい内容の講演でした。

引き続き行われた「同窓会懇親会」は、三牧同窓会会長による挨拶で開会し、卒業・修了期の垣根もなく、参加者間の親睦を深め、和やかな雰囲気の中に閉会となりました。

ホームカミングデーは、交流を通じた各種情報交換のための卒業生、修了生、在学生、教職員間の相互ネットワークを構築し、卒業及び修了後におけるフォロー体制を確立するための重要なイベントです。今後、大学全体で盛り上げていく必要がありますので、将来の卒業生・修了生である在学生の皆様は、次回開催の際は、ホームカミングデーへの参加と協力をお願いします。



# 障がい者アスリートの社会的評価について

◆ 附属図書館事務室 福田 知二

私は、平成26年11月1日～3日に長崎県で開催された「長崎がんばらば大会ー第14回全国身障者スポーツ大会ー」に徳島県選手団（水泳競技選手）の一員として参加し、幸運にも25m平泳ぎ（片大腿切断・不完全・40歳以上区分）で一位となり金メダルを頂戴しました。

今回の結果に至るまでサポートして戴いた引田スイミングクラブコーチのみなさん、香川大学附属病院医療スタッフはじめ、応援して戴いた附属図書館スタッフ、学内の諸先生方、そして家族にこの場を借りてお礼を述べさせていただきます。

さて、メダル獲得は嬉しい事ではありますがそれ以上に感慨深かったのは、難病が原因で左股関節を喪失（人工股関節置換）しましたが、そのハンディキャップを乗り越え短期間で復活しこのような大舞台に立てたことです。それは先天性、後天性、障がいの分類等はそれぞれ違いますが、他の都道府県のアスリートも同じ気持ちだと思います。

また、私のように人工股関節置換の施術を受けた患者でも、何の不安も無く（股関節脱臼のリスクが高い）平泳ぎが完泳出来た大きな要因として医療技術の進歩が挙げられます。それら医療技術の進歩には学術情報が不可欠であり、その情報の一端を司るのは私たち図書館員かと思っています。図書館員である私が身をもってその恩恵を受けたと

いう事は、これからの図書館（大学）業務において一層の励みになるかと思えます。

ところで、昨年12月3日朝のNHKニュースで、「障害者アスリート 企業はどう生かす（原題のまま）」という特集企画を視聴しました。

その内容は、国は企業に対し全従業員の2%の

障がい者を雇用する事を求めている中で、『障がい者という事実を受け入れ、苦しい試練を耐え乗り越えたアスリート達は相当なメンタルの強さがある』と最近雇用側からも高く評価されているという事でした。

雇用側はさらに一步踏み込み、障がいを持った従業員に相応の地位（責任）を与えてこそ雇用のバリアフリーが芽生え、それによりノーマライゼーション社会が促進（成熟）されるのではないかと私は感じました。

徳島県選手団の一員として共に闘ったアスリート達が、ノーマライゼーションの成熟した社会で大いに活躍する事を願って止みません。

最後に、競泳経験のある娘達に電話し「金メダル取ったよ！」と報告したら、「**で、何秒だった？**」と聞かれ、タイムを言うと「**ふ～ん、遅くはないけど速くもないわ**」でした。まったく、私をハンディキャップ扱いしないコーチより厳しい娘達です。



# 健康手帳

## 癌治療100年の進展 —アミノプテリンから分子標的治療薬へ—

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



癌は日本人の死因の第一位を占めており、近年では年間35万人を超える人々が亡くなっています。癌の原因は遺伝的な面に加えて、生活習慣による遺伝子異常の蓄積が深くかかわっています。長寿化によって癌を発病する人が増加していることがその裏付けとなっています。今回は、抗癌剤による治療が最も効果をあげた白血病と巧妙な増殖機構を解明するきっかけとなった乳癌に対する治療の進展の100年の歴史を振り返ってみましょう。

疾病の人類史において癌の発生が目立つようになったのは1900年代のことで、この頃、人類の寿命が延びはじめました。癌の治療に関して、わが国では1804年に華岡青洲が乳癌摘出術に際して、初の全身麻酔を成功させました。アメリカでは1890年にハルステッドが乳癌の根治手術に挑みました。1950年代には周辺の骨や筋肉まで切除してしまうような超拡大根治術にまで突き進みましたが、癌細胞の増殖メカニズムや転移のしくみが理解されていなかったため、治るか治らないかの違いの理由は明らかではありませんでした。

抗癌剤の開発は、第一次世界大戦時にドイツで化学物質の大研究が行われたことが契機となりました。アミノプテリンという薬物が白血病細胞を減少させるという初めての発見があったのは1947年のことでした。これに続いて、1950年代に多くの抗癌剤が発見されました。薬剤を組み合わせた併用療法も開発されました。放射線の利用では、1895年にレントゲンによってX線が発見され、続いて1898年にキューリー夫妻がラジウムを発見し、まもなく放射線治療に応用されました。

これらの成果を総合的に用いる集学治療の展開により、1970年代に小児白血病の治療成績が顕著に向上しました。幹細胞移植治療も強力な補助療法となりました。その後、肺癌などの固形腫瘍にも抗癌剤の併用療法が行われるようになり、外科手術の前後に抗癌剤を組み合わせるアジュバント療法が開発されました。

一方、1920年に睾丸を除去された犬の前立腺が縮小することが観察されました。これは男性の生殖器官が睾丸由来の男性ホルモンに依存することを示唆する結果と考えられました。また、1929年に女性の尿から女性ホルモ

ンが精製されたことを契機として、女性ホルモンまたは類似物質の研究が熱心に行われました。乳癌は女性ホルモンに依存する乳腺細胞に生じる癌であることから、女性ホルモンの働きを阻害する物質なら乳癌を縮小させるのではないかと期待されました。このうちタモキシフェンという物質が女性ホルモン受容体にすっぽりはまる構造をしており、女性ホルモン受容体が発現しているものでは期待通りに腫瘍の縮小が認められました。しかし、この研究を通じて、全く抗腫瘍効果がみられない非常に悪性度の高い症例があることがわかりました。

この悪性度の高い乳癌細胞を調べたところ、成長調節遺伝子（HER、ヒトEGF受容体）類似の癌遺伝子（Her-2）が過剰に発現していることが明らかになって、1990年にこれを特異的に抑制する抗体（薬剤名はハーセプチン）が開発されました。このような特定の遺伝子の機能や分子・タンパク質の働きを阻害する薬剤は分子標的治療薬と呼ばれ、現在、多くの新薬が研究開発されています。

1970年代には、癌細胞の遺伝子の働きが研究されるようになり、癌細胞では受精後の初期胚に活動するほとんどの遺伝子が活性化していること、多くの癌遺伝子や癌抑制遺伝子が発見され癌遺伝子が連鎖的に機能していることが明らかになりました。癌細胞の活発な増殖能はこれらの遺伝子の働きに支えられているのですが、悪性度の高い癌では原発巣以外に広がりやすい（転移）仕組み、抗癌剤を細胞外に汲み出してしまうような仕組み、あるいは抗癌剤の働きを無効にする仕組みを持っているものもあります。このような薬剤耐性となった癌の治療は非常に困難です。

成人の癌細胞には10-20種類の癌遺伝子の活性化または癌抑制遺伝子の不活性化が存在することが明らかになっています。一方、小児癌の遺伝子異常は成人よりも少ないと考えられています。癌細胞の遺伝子変異は、先祖の細胞に起きたものが子孫に引き継がれることに加えて、新たに発生した変異が付加されているということも分かってきました。生活習慣の良し悪しは個人の健康のみならず未来の子孫の健康にも影響します。

# 図書館だより

## ①卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

### ◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証(運転免許証, 保険証等)を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。

### ◎非来館での利用

利用者から申込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお、送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブサイト (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) の「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。電話でお問い合わせください。

(TEL 088-687-6156)

\*来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のようになっています。

貸出冊数	貸出期間
5冊以内	1か月以内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

## ②デジタル化資料送信サービスの利用について

平成27年2月から、図書館において国立国会図書館のデジタル化資料が利用できるようになりました。

100万点以上のデジタル化資料を閲覧・複写することが可能です。

送信資料の利用を希望する方は、平日の9時から17時の間に図書館で申込手続きを行ってください。

なお、「デジタル化資料送信サービス」が利用できるのは学内者に限定されています。

## ③マイライブラリの利用について

「マイライブラリ」は、インターネット上で、図書館からの連絡事項や利用者自身の貸出状況の確認、貸出期間の延長、学外機関からの文献取寄せの申込み等ができるサービスです。大変便利なサービスですので、ぜひご利用ください。

なお、「マイライブラリ」が利用できるのは学内者に限定されています。

### ◎アクセス方法

図書館ウェブページの「マイライブラリ」をクリックするとログイン画面が表示されますので、「ユーザー名」、「パスワード」を入力してください。

#### ※ユーザー名、パスワード

学生・情報基盤センターのパソコンにログインする際のユーザーID、パスワード。

教職員・メールを利用する際のユーザーID、パスワード。

## ④各種ガイダンスについて

図書館では、学内の方を対象に下記の期間に文献検索や、雑誌論文などの収集を手助けする各種ガイダンスを実施しています。

詳しい日時が決まりましたら、図書館掲示板、図書館ウェブサイトなどでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

4月／新入生のための図書館オリエンテーション  
春～秋頃／文献検索講習会

(大学院学生、学部学生、教員対象)

## ⑤レファレンスサービスについて

図書館では、図書館利用や資料・事柄等に関するいろいろな質問を受け付けています。わからないことがありましたら、カウンター職員にご相談ください。即答が難しいものは、後日、回答いたします。



## 防災訓練に参加しましょう！

### ◆ 施設課

平成26年11月10日（月）に防災訓練を実施しました。

訓練は、鳴門市消防本部・鳴門西地区自治会協力のもと、午前は本学、阪根健二教授の「学校危機管理」の講義後、AED講習会を開催し、人体模型を用いて実地講習を行いました。

午後より、震度6強程度を想定した地震避難訓練及びそれに伴う大津波を想定した津波避難訓練を行い、本学職員で構成された自衛消防隊が出動し、無線機を用いて学生、教職員、地域住民の避難訓練、衛星電話を用いて附属学校園への被害状況・安否確認等の訓練を行いました。

引き続き、防災体験訓練として、起振車による地震体験、煙ハウスによる煙体験、梯子車や救助袋による避難訓練、消火栓を用いた放水訓練、イーバックチェアやレス

キューボードを用いた救護訓練、水消火器を用いた消火訓練など各体験訓練を行いました。

また、今年は、非常食試食体験コーナーを設け、災害時に配布される非常食の試食を行いました。

防災訓練は、災害に備え行うものです。東日本大震災では防災訓練を重ねて取り組んできた釜石市の小中学生の生存率が99.8%だったというデータも出ており、訓練で身に付けた危機状況での的確な判断、すばやい避難がその数字に反映しているといえます。

また、訓練は、自分自身の安全を確保するだけでなく、教員として災害時における児童・生徒の安全を確保するための知識・技能・対応能力を身に付ける訓練にもなりますので、教員を目指す学生の皆さんも、積極的に防災訓練に参加し、訓練を受けましょう。



# 情報基盤センターよりお知らせ

学生ボランティアによる「情報基盤センター学生ICTサポート」は「学生同士で教えあい、学びあうこと」を目的とし、平成25年度から活動を始めました。スマートフォンやタブレットPC等の普及により情報環境の利用手段が多様化していることから、授業課題や研究発表においての利用が高まっています。しかし、上手く使いこなせずに困っている方もこれまでのサポート活動の中でいらっしゃいました。以前から、情報基盤センターの利用支援室でもICTサポートを行っていましたが「少し敷居が高くて、パワーポイントの使い方のような基本的なことは聞きに行きにくい」という声もありました。そこで、「ICTに関して相談しやすい場」としての活動が始まりました。

この活動では、基本的なパソコンの操作からソフトウェアに関する応用的な使い方まで様々な相談を受け付けてきました。今年度の活動では、パワーポイントの使い方に関する質問がありました。そのときには、新しいスライドの出し方や画像の挿入方法、アニメーションの付け方といった基本的な操作を伝えさせていただきました。使い慣れていればなんてことはない操作かもしれませんが、初めて使うソフトウェアではそうはいきません。相談者の方も「研究発表のために急を要してパワーポイントを使った発表が必要になった」と言う方でした。また、他にも「ノートパソコンの動作が重いので見て欲しい」といった相談もありました。そのときには、PCのスペックを確認させていただき、今後の対応策や使用の際に気をつけていただきたいことを伝えました。その他様々な相談を受けさせて頂きました。その中には難しい相談もあり、その場でお答え出来なかったもの

もありましたが、サポートメンバー内で協議し、後日メールにて回答させていただきました。

平成26年度の活動では毎週水曜日と金曜日の二度活動をしていました。来年度以降につきましては、端末室や情報基盤センター前の掲示板に詳細を記載したポスターがありますので、場所や時間を確認して相談に来ていただければ幸いです。また、メール（narukyootasukeman@gmail.com代表：南郷）での相談も受け付けておりますので、こちらでも対応させていただきます。

今後はwindowsアップデートや学内メールの利用法、情報基盤センターで行われているオフィスソフトの利用講習会への参加などを取り入れた活動を予定しています。皆様の相談をメンバー一同心よりお待ちしております。お気軽にお越しください。



# 学生表彰について

	氏名	所属(学年)		表彰事由
前期	弓削 育之	学部	小学校教育専修 英語科教育コース 4年	平成26年度全日本卓球選手権大会徳島県予選 一般の部 優勝
	園山 由華	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育) 1年	第35回徳島県女子剣道大会 個人戦(29歳以下) 準優勝
	庄野 雄介	学部	小学校教育専修 技術科教育コース 4年	第30回全国教育系大学弓道選手権大会 男子個人の部 第三位
		剣道部(男子)		第65回四国地区大学総合体育大会 男子の部 第三位
		剣道部(女子)		第65回四国地区大学総合体育大会 女子の部 第三位
		弓道部(男子)		第30回全国教育系大学弓道選手権大会 男子団体の部 優勝
後期	山田 裕起	大学院	人間教育専攻 幼年発達支援コース 2年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 400m 優勝
	橋口 善成	大学院	人間教育専攻 現代教育課題総合コース 2年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 400mH 第三位
	林 亜佑美	学部	小学校教育専修 体育科教育コース 3年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 走高跳 第三位 100mH 第三位
	中瀬 晴香	学部	幼児教育専修 4年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 100m 第二位
	近藤 瑞樹	学部	小学校教育専修 数学科教育コース 4年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 100mH 第四位
	浦山満里奈	学部	小学校教育専修 体育科教育コース 2年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 走幅跳 優勝
	原田 佳奈	学部	中学校教育専修 数学科教育コース 1年	第65回四国地区大学対校選手権大会陸上競技 円盤投 優勝
	真嶋 健司	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育) 2年	第33回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 男子個人選 準優勝
	山口あずさ	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育) 2年	第33回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 女子個人選 優勝
	大西 翔太	学部	中学校教育専修 社会科教育コース 4年	第8回全徳島弓道大会 一般の部 優勝
	庄野 雄介	学部	小学校教育専修 技術科教育コース 4年	第21回徳島県50射選手権大会 一般の部 男子 準優勝
	永島 一隆	学部	中学校教育専修 技術科教育コース 3年	平成26年昇段祝賀納め射会 男子 弐段以下の部 優勝 平成27年徳島県射初め式 男子 弐段以下の部 優勝
	沼本 昌大	学部	中学校教育専修 技術科教育コース 2年	平成26年昇段祝賀納め射会 男子 弐段以下の部 第三位
	青木 傑志	学部	中学校教育専修 保健体育科教育コース 1年	平成26年昇段祝賀納め射会 男子 弐段以下の部 準優勝
	安村 英生	学部	小学校教育専修 学校教育実践コース 1年	平成27年徳島県射初め式 男子 弐段以下の部 第三位
	末善 優香	学部	中学校教育専修 英語科教育コース 2年	第21回徳島県50射選手権大会 一般の部 女子 優勝
		弓道部		第8回全徳島弓道大会 一般男子の部 団体 準優勝 第21回県下大学選手権 男子団体 第三位
		タッチフットボール部 BIG EDDY		全国大会「ファイナルタッチ」オープン部門 Best4に次ぐ結果 (5位6位決定戦はないが5位または6位に相当)

行事予定  
平成27年度前期

		行事等	備考
前期 4月1日(水)～9月30日(水)	4月1日(水)～4月7日(火)	春期休業	
	4月8日(水)	入学式	4月23日(木)「履修登録」締切 ※変更期間
	4月8日(水)～4月9日(木)	新入生オリエンテーション	
	4月9日(木)～4月10日(金)	新入生合宿研修(学部)	4月24日(金)～4月30日(木)
	4月13日(月)	授業開始	
	6月9日(火)～6月10日(水)	附属校園観察実習(3年)【附幼・小・中】	
	8月1日(土)～9月9日(水)	夏期休業(大学院)	※5月7日(木)は月曜の授業、 5月8日(金)は水曜の授業を 実施する。
	8月3日(月)～8月10日(月)	前期試験期間	
	8月11日(火)～8月22日(土)	夏期休業(学部)	
	8月23日(日)～8月30日(日)	集中講義	
	8月24日(月)～9月4日(金)	保育所実習Ⅰ(2年)【鳴門市内保育所等】	
	8月24日(月)～9月4日(金)	保育所実習Ⅱ(4年)【鳴門市内保育所等】	
	9月1日(火)～9月30日(水)	主免教育実習(3年)(長期履修生)【附幼・小・中、協力校】	
	9月7日(月)～9月18日(金)	教員インターンシップ(4年)【附幼】	
	9月1日(火)～9月30日(水)	教員インターンシップ(4年)【鳴門市内小中学校】	期間中の2週間
	9月2日(水)	ふれあい実習(観察実習)【学内】	
	9月7日(月)	ふれあい実習(観察実習)【附幼・小・中】	
	9月8日(火)、9月9日(水)	ふれあい実習(交流実習Ⅰ)【鳴門市内幼稚園】	どちらか1日
9月17日(木)～9月28日(月)	ふれあい実習(交流実習Ⅱ)【附特別支援】	期間中のうち1日	
9月10日(木)～9月30日(水)	集中講義(大学院)		
9月24日(木)～9月25日(金)	2年次生合宿研修		

就職支援行事予定

※詳細は就職支援室で確認してください。

月	日時	行事名等	内容(予定)
4月	10日(金)	教員採用試験対策説明会(学内)	教員志望学生への指導・助言
	15日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(講) 集団面接・模擬授業・個人面接(筆) これまでの教育と教育改革、各種答中等Ⅰ
	16日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 各種答中等Ⅱ、学習指導要領
	18日(土)	教員採用模擬試験	受験希望者(2回目)(有料)
	22日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導
	23日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育法規
	30日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育法規
5月	中旬～5月下旬	教員採用試験説明会(教育委員会)	教員採用試験について
	下旬～5月上旬	公務員等ガイダンスⅢ・Ⅳ	国立大学法人等職員採用試験説明会、徳島県警説明会等
	上旬	保育士模試	受験希望者(有料)
	13日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 指導案と学習指導、学習評価、学習方法、カリキュラム等
	14日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 指導案と学習指導、学習評価、学習方法、カリキュラム等
	20日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 道徳教育、人権教育、特別支援教育
	21日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 道徳教育、人権教育、特別支援教育
	23日(土)	教採実技ガイダンス(集団)	模擬集団討論(2回目)
	27日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 総合的な学習、環境教育、情報教育、キャリア教育
	28日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 総合的な学習、環境教育、情報教育、キャリア教育
6月	上旬～6月下旬	教採実技ガイダンス(音楽)	音楽実技(弾き歌い:2回実施)
	3日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育原理・教育心理・教育史、一般教養
	4日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育原理・教育心理・教育史、一般教養
	10日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育時事、一般時事、一般教養
	11日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育時事、一般時事、一般教養
	13日(土)	教採実技ガイダンス(個人)	模擬授業・個人面接(2回目)
	17日(水)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 適正検査(YG性格検査、内田クレペリン検査) (講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策
	18日(木)	教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 適正検査(YG性格検査、内田クレペリン検査) (講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策
7月	24日(水)	教採対策ガイダンス(直前編)	神奈川県・川崎市・横浜市対策
	25日(木)	教採対策ガイダンス(直前編)	大阪府・大阪市・堺市対策
	1日(水)	教採対策ガイダンス(直前編)	兵庫県(B201)・神戸市対策(就セミナー室)
	2日(木)	教採対策ガイダンス(直前編)	徳島県対策
	上旬	教採実技ガイダンス(美術)	図画実技(鉛筆素描:1回実施)
	上旬～下旬	教採実技ガイダンス(体育)	体育実技(ボール・器械運動:2回実施、水泳:2回実施)
	下旬～9月上旬	教採二次対策ガイダンス	個人面接、模擬授業、場面指導、集団討論、集団面接等

編集後記

春は、新しい出会いと旅立ちの季節です。本号は、卒業・修了を迎えた学生たちの寄稿を中心に掲載しました。巣立っていく皆さんにとって、本学で過ごした時間を振り返ると、様々な思い出やできごとがよみがえると共に、自分の成長も感じられるのではないのでしょうか。本号の新しい企画として、「先輩からのメッセージ」のページがあります。皆さんの先輩である卒業生・修了生の現在の勤務校での様子をお伝えしています。本学は、国立教員養成大学・学部教員就職率全国一位を5年連続達成しました。本学での学びを生かし、卒業後も活躍している先輩の様子は、在学生の皆さんにとって、目標となり大きな励みとなることでしょう。(T.H.)



